

「徳島市子どもの学び推進プロジェクトチーム会議」議事録

会議の名称

第1回 「徳島市子どもの学び推進プロジェクトチーム会議」

会議の目的

一人一台タブレットと高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、誰一人取り残すことのない、個別最適化された学びを実現し、未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指している。なお、家庭教育の充実・学校教育の充実・遠隔教育の充実を育成の柱と掲げている。

とき

令和3年7月9日(金) 15:30～

ところ

徳島市役所11階 1101会議室

出席者

委員9名(大学関係者・保護者代表・小中学校長含む)

事務局6名(徳島市教育委員会)

議題

- (1) 「徳島市子どもの学び推進プロジェクト」について
- (2) タブレット端末の活用状況について
- (3) 今後の取組について

議事内容(主な意見等)

(1) 「徳島市子どもの学び推進プロジェクト」について

○タブレットの持ち帰りに関しては、保護者の生活環境や契約等の状況が懸念される。どの子どもも平等に学習が受けられるよう学校・行政・保護者が一体となって取り組んでほしい。

○Wi-Fi環境について国からの補助対象等について対策がとられている。また、オフラインでも使える学習教材もある。

○オフラインで使えるものを優先し、不公平が生まれないように手立てを講じながら、今後検討していきたい。

(2) タブレット端末の活用状況について

○1学期中に何度か試験的に持ち帰りを実施した。使い始めたばかりであるが、支援員の来る日とタイミングを合わせて、学習を進めている。子どもの方が慣れるのは早いので、教員の研修が必要であると感じた。

○3～6年生はTeamsでつながるところからはじめた。ドリルや検索の他、校区探検での活用も行った。また、7月上旬に親子タブレット教室を実施した。校長室だよりで「GIGAスクールのお話」を掲載し、家庭への周知を行っている。

○教員が便利だと実感すると、使用は広がる。人権の授業では、生徒が意見を発表しやすくなるように画面の色分けをしたり、数学の時間に個別にアドバイスをする際に活用したり、研究授業で生徒の考えを参観者に見えるように工夫をするなど、リアルタイムの学びの把握において様々な場面で利用している。

○活用状況を高めるためには、いい実践の情報共有やシェアをする仕組みをつくるのが有効である。また、タブレットを活用することで、学びにリアルタイムに対応することができる。

(3) 今後の取組について

○災害時の利用についてどのように活用していくのか。

○オンラインでは最大200人までつながり、リモートで学習することができる。コロナ後も、二度と対面だけの授業には戻さないと、政府も言っている。避難所での学びの保障は必要である。また、教員も在宅で授業を行うことも考えられる。

○小一プロブレムや中一ギャップの問題にもタブレットは有効であると考えられる。例えば進学先の学校の様子を知るために体験学習の代わりにタブレットで授業や学校の様子を知ることもできる。また、教科担任制のオンライン授業での活用など、タブレットの利用による可能性の広がりを感じる。

○タブレットと既存のICTとの連携を進め、さらなる改善に努める。また、夏季休業中には7日間、13講座の研修も予定している。委嘱研究所員もタブレットを使った学習を研究テーマにし、年度末の発表を行う計画だ。

○タブレットの活用が進んでも、人との直接の関わりは大事である。ICT「も」活用しながら並行して教育を進めて欲しい。教育には本質がある。GIGAスクール構想の導入は、授業改善・生徒指導・情報教育の充実が目的である。21世紀型能力の基礎力として、「読み・書き・そろばん」に加え、「情報スキル」が示されている。教師の学力観と授業観の転換が重要である。